

大道森<sup>だいどうむい</sup>（ハーフムーンヒル）戦争遺跡碑の完成について

はいさい くすーよー ちゅーうがなびら。

本日は、大道森<sup>だいどうむい</sup>（ハーフムーンヒル）戦争遺跡碑の完成について市民の皆さまにお知らせいたします。

3月20日に真嘉比南公園内に「大道森（ハーフムーンヒル）戦争遺跡碑」が完成いたしました。

碑の上部には、現場で見つかった弾痕の残る石壁を展示し、下部には大道森の戦闘と平成20年の遺骨収集について説明した説明文、発射痕のある薬莢など15品を展示しております。

さて、真嘉比古島第二土地区画整理事業の行われた真嘉比周辺は大道森（通称ハーフムーンヒル）と呼ばれ、おもろまちにある慶良間チージ（通称シュガーローフヒル）と並び、沖縄戦における最も激しい戦闘が行われた地域でありました。

当地では土地区画整理事業の進展に伴い、多数の戦没者の遺骨、不発弾、日米両軍の物品等が発見されており、平成20年6月22日には、当地において市民参加型の遺骨収集も実施いたしました。

私も遺骨収集作業に参加いたしましたが、日本兵のものと思われる遺骨や手榴弾、軍服のボタンなどが収集されるのを目の当たりにしたとき、沖縄戦で犠牲になられた全ての皆さまのご冥福をお祈りするとともに、子や孫の世代に沖縄戦の実相を伝えていく必要性と、平和で安心・安全な那覇市を築いていく想いを新たにいたしました。

戦後、68年が経過し、戦争体験者も少なくなるとともに、戦時中の様子を伝える建造物等も徐々にその姿を消し、沖縄戦の風化が叫ばれております。

真嘉比地区の様相も様変わりしていくなか、今回、一括交付金を活用して、本市に残る戦争遺跡を整備・保存することは、沖縄戦の悲惨な歴史を忘れず、後世にその記憶を残していけるものと考えております。

市民や観光客の皆さまに、この戦争遺跡碑を見ていただき、沖縄戦の記憶の継承と平和を考える機会となることを期待しておりますので、ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。